

京都府スーパーサポートセンターSSCラボにおいて、第2回公開講座が行われました。

日時 5月27日(金) 10:30~16:30

テーマ WISC-IV活用事例講座

講師 臨床心理士 大六一志氏



当日は天気に恵まれた一日でした。地域支援センターのコーディネーターや通級指導教室の先生方を中心に、32名が受講しました。

講師の大六一志先生は、日本版 WISC-IVの刊行委員で、知能検査の正しい活用と普及のために活動されています。講演や相談活動で全国を駆け巡っておられる WISC-IVの第一人者です。

講義ではまず、知能検査の歴史的な経緯から今 WISC-IVに求められていることをお話されました。子どもにつまずきがあるかどうかは、検査をする前に授業で見つけるのが基本であること、そのつまずきの「原因」を明らかにするのが WISC-IVの役割であるということ、その原因によって一人一人に合った支援の内容や方法を明らかにすることが大切であるという特別支援教育の原点を改めて学ぶことができました。

解釈と支援の章では、WISC-IVの指標得点や群指数の特徴から、問題の原因を読み取る方法について分かりやすく説明されました。実際の検査結果を解釈する演習も行われました。さらに具体的な対応、指導の具体例、支援の参考になる文献の紹介をしてくださいました。また、読み書きや身辺整理など基本的な作業が「熟達」するまで毎日繰り返してトレーニングする必要性やエンパワメント（主体的問題解決）の重要性についても強調されていました。今後の教室での指導にすぐに役立つ知識が満載の一日になりました。



大六先生の講義では、議題の合間に全国各地の美しい風景の写真が映し出されます。その時のエピソードや写真のお陰で、フル回転している私たちの目や頭も少し休まり、また気持ちを切り替えて次の講義内容に集中することができました。（写真は鎌倉花火大会の写真です）京都タワーや伏見稲荷の鳥居も登場し、私たちにも一層心なごむひと時でした。大六先生の講義から、子ども達が学習に向かう姿勢を作るためのヒントももらった講義でした。

<参加者アンケートより>

○感想（一部抜粋）

- ・ WISC-IVを使って児童のつまずきの原因の理解とその子に合った対応を考えるという原点に立ち戻れた。
- ・ 今まで検査や相談場面で会った子どもたちと重なる事例がたくさんあり、とても勉強になった。
- ・ 下位検査の指標得点と支援のつなぎ方がよくわかった。分析について理解が深まった。
- ・ 実践に役立ちスキルアップにつながるとても充実した講義だった。これからの指導に活かしていきたい。

次回第3回公開講座は、6月24日(金)に「インクルーシブ教育システムの推進と合理的配慮」をテーマに行います。講師は大谷大学教授の木舩憲幸氏です。対象は京都府内（京都市を除く）の公立小・中・高・特別支援学校等教職員です。